

平成26年度第7回 印西市市民活動推進委員会 会議要旨

1. 開催日時 平成27年3月4日（水） 午後1時30分～3時40分
2. 開催会場 印西市文化ホール 大会議室
3. 出席者 牧野昌子委員長、林正信委員、植本崇委員、植村泰則委員、玉井和幸委員、
近藤りえ子委員、大野定俊委員、浅賀博委員、桑田佳雄委員、桑原玉樹委員、
山野井美和子委員（以上11名）
4. 事務局 松田課長、伊藤、杉山
5. 傍聴者 0名（定員5名）
6. 会議内容
 - 1 開会
 - 2 委員長あいさつ
 - 3 議題
 - (1) 平成27年度企画提案型協働事業実施要領の検討について
 - (2) 「市民活動団体（NPO等）との協働を進めるためのガイドライン」の手引き作成について
 - 4 その他
 - 5 閉会

7. 会議要旨

3 議題

- (1) 平成27年度企画提案型協働事業実施要領の検討について

《事務局説明》

〔参考資料〕資料1、平成26年度第6回市民活動推進委員会資料2

- ・前回会議時において事務局で検討することとなった実施要領の記述について、以下のとおり検討結果を報告した。
 - ①実施要領3ページ「イメージ図」について
 - ・市各部署と市民活動団体等の矢印を双方向とした。
 - ・「地域課題」の「解決策を募集・提案」と修正した。
 - ・双方の募集・提案を受け、具体化したものを企画提案として応募する表現とした。
 - ②実施要領4ページ「3. 企画提案型協働事業の流れ」について
 - ・関連部署との事前相談を「必ず」行うと追加修正した。
 - ・協働コーディネーターの役割について、両者の意見を調整する「とともに、よりよい提案に向け助言する」を追加した。
 - ③実施要領6ページの「4. (1) 【対象外となるもの】」について
 - ・前回会議で「地域住民の交流行事等の親睦的なイベント」のうち、「交流行事等」は対象外から除いてもよいのではと意見があったが、事務局で検討した結果、市の施策全体に関わる部分であるので、現状では変更が難しいとの結論に達した。

《委員意見》

- ・ガイドライン本編では協働に向いている事例にイベントの企画、運営を挙げているが、企画提案型協働事業で認められていないということだと、整合性に問題がないか。
→実施要領6ページにある企画提案型協働事業の要件は、交流事業等の親睦的なイベントは対象にならないという限定的な意味である。また、企画提案型協働事業ではないが、市でも協働によるイベント開催の実績はある。(事務局)
- ・ガイドライン本編では「イベント」としか記載されていないが、企画提案型協働事業では「親睦的なイベント」となっている。親睦的でないイベントは対象とすることができると解釈してよいか。
→イベントがすべて対象外ということではなく、イベントの性質や内容によって判断されると考えていただきたい。(事務局)
- ・印西市でもこれから急速に少子高齢化が進むので、市民の交流は将来的に重要な課題になってくると思われる。今後の課題として考えていく必要があると思う。
- ・飲食を伴う親睦的イベントは対象にできないと思うが、交流行事は認めてもよいのではないか。
- ・交流行事のみを対象とした一時的、一回限りのイベントは対象にならないとすればよいのではないか。
- ・これまで親睦的イベントに実際に該当した事業はあるのか教えてもらいたい。
→今年度の「市民ミュージカル」は審査において該当するものと判断された。それ以外に企画提案型協働事業で親睦的なイベントの実績はない。(事務局)
→「対象外となるもの」については、当面現状の要件のとおりでよろしいか。今後もこのように必要に応じて要件を見直す議論は必要と思われる。(委員長)
- ・実施要領3ページ「イメージ図」について、募集も双方向の矢印で表わされているが、市民が市に募集するようにも見えてしまう。
- ・「募集・提案」を、「募集／提案」とすればわかりやすくなるのではないか。
- ・募集は市民が市に行うとは考えづらく、イメージ図をあまり複雑にするのも好ましくない。このまま「募集／提案」とする程度の変更でよいのではないか。
- ・「地域課題を募集／提案」と、市への提案と2本の矢印で示したほうがわかりやすくなるのではないか。
- ・「募集／提案」は地域課題ではなく「解決策の募集／提案」である。なるべくシンプルでよいのではないか。
→「募集・提案」を「募集／提案」とし、それ以外は事務局の提案のとおりとすることでよろしいか。(委員長)
- ・地域社会が抱える様々な問題や課題の解決に向けて企画提案型協働事業を提案しているが、同じ団体が同じ事業を7年間継続実施している現状がある。このままではいくら協働事業を実施しても課題解決が図られないことになる。5年の年限を設け、その中で課題解決の方向が明らかになったとして事業を企画提案型協働事業から新たなステージへ移行することが必要である。年限の期間や、いつから実施するかといった点もあわせ、検討課題として議論していただければと思う。
→これまでもいくども議論されてきたが、継続事業となっている「竹袋調整池周辺の維持管理事業」は土木事業であり、企画提案型協働事業でなければ競争入札の対象となり、NPO団体にとってはハードルが高いのが実状である。(事務局)
- ・子育て支援の団体ではプロポーザルを行って市の委託事業になった実績もある。入札を行えばよい

のではない。

→子育て支援であればNPOのメリットがいろいろ考えられるが、公園施設の維持管理は民間事業者と競争することが難しい。(事務局)

- ・市民サービスを考えれば、安価で同一の事業展開ができる民間事業者がいればその方がよいということになる。あるいは、NPOのメリットが生かせる仕様書を作っていく方法もあるのではないかと。→公園のような設置管理に関する条例がないため、企画提案型協働事業でなければ現在行われている花の植栽のような事業は市の事業として実施することはできない。(事務局)
- ・市内では多くのボランティア団体が花壇等の維持管理を行っている。市としてももう少し工夫が必要なのではないか。
- ・地域課題を解決するというこの制度の原点に立ち返れば、これまでの成果と課題を検討して次の事業を展開するサイクルがないと、いつまでも事業が続いていくことになる。もう一度団体と市の間でそういった観点から検討していくことが必要ではないか。
→担当課の都市整備課にあらためて今回の意見を伝え、今後の事業のあり方について検討してもらうよう投げかけてもらいたい。(委員長)
→入札関係も含めて課題とし、調整させていただきたい。(事務局)
- ・企画提案型協働事業の実施に期限を設けることについて、委員会として市長に意見を提出した場合、市としてはどのように対応していくのか教えてもらいたい。
→意見を踏まえて市で検討していくことになる。(事務局)
- ・このことを平成27年度から実施要領に盛り込んで実施するのは時期尚早ではないか。
- ・まだ議論が整理されておらず、年限についてもこれまで取り上げられてこなかった。来年度から実施するというのは性急に思われる。
- ・結論を出す期限は定めた方がよい。
→今年度は必ず担当課に制度面の研究をしてもらうよう伝えていただくことにしたい。(委員長)
- ・市民活動推進委員会が企画提案型協働事業以外の仕組みに意見は出せない。まず事業のステップアップが可能か広く研究してもらい、それから年限の議論に進む形の方が望ましいと思われる。
- ・入札が必ずしもNPOにとって不利とは言えない。担当課にもその部分まで含めて検討していただきたい。
- ・次の3点について確認していただきたい。調整池を含めて都市公園にできないか。調整池の管理に指定管理者制度を導入できないか。調整池外の当該市有地に花を植える上で適当な別の制度はないか。
- ・木下万葉公園との一体的な位置付けについても将来的に検討していただきたい。

《検討結果》

- ・実施要領3ページの「イメージ図」のうち、「解決策を募集・提案」を「解決策を募集／提案」と記述を修正し、その他は事務局案で承認。
- ・企画提案型協働事業の期限の設定を検討するひとつの材料として、今年度、都市整備課に「竹袋調整池周辺の維持管理事業」の別の業務委託・事業形態を研究してもらうよう依頼する。

(2)「市民活動団体（NPO等）との協働を進めるためのガイドライン」の手引き作成について
《事務局説明》

〔参考資料〕資料2、平成26年度第6回市民活動推進委員会資料3

- ・前回会議において事務局で検討することとなったガイドライン本編の手引き作成に向け、叩き台を提示した。
- ・叩き台は、「既存のガイドライン本編の内容を集約しながら、平易な表現や図表を活用し、手軽に利用しやすい手引きを作成する」という、前回会議で決定した編集方針にしたがって作成した。
- ・仮タイトルは『印西市協働のガイドライン（概要版）』、分量は12ページ程度とした。
- ・今回の叩き台はまだベタ打ちに近い状態のためデザインや体裁は未調整である。また、「協働の事例集」は内容を検討中である。

《委員意見》

- ・叩き台の中では、各章の中で「詳しくはガイドライン」と記載されているが、これが概要版なのか本編なのか区別が付きにくい。概要版のタイトルは「手引き」というような別の表現の方が区別できてよいのではないか。
- ・従来から市民団体と市の協働が行われ様々な市民サービスが提供されているが、当事者間にそれが協働事業であるという認識が弱い。ガイドラインは従来から実施されている後援・委託等の協働事業と、企画提案型協働事業など課題解決に今後期待される協働事業が混じって記述されているため分かりづらくなっている。改善のために、構成を①後援・委託等従来からの協働事業、②企画提案型協働事業など課題解決のため今後期待される協働事業、③これまでの優れた事例紹介の3部構成にすれば、市民・市職員に理解しやすいものになるのではないか。ただ、このような方針で進めるとなると、策定に少し時間をかけていく必要がある。
- ・活用しやすさを重視するのであれば、A4サイズよりもっとコンパクトなサイズの方がよいのではないか。また、Q&Aの部分は字体を変えてメリハリをつけていった方がよい。
→A5サイズも検討したい。ただ、文字が小さくなり見にくくなってしまうという懸念がある。（事務局）
- ・市民向けと市職員向けに分冊した方がよいように思われる。市民向けの内容と市職員の内容が混ざってしまっている。
- ・市民向けと市職員向けの内容を整理し、言葉尻も丁寧にした方がよい。また、広い意味の協働と企画提案型協働事業のような狭い意味の協働事業が混ざってしまっている部分が見受けられるので、内容を整理していった方が読みやすくなるのではないか。
- ・Q&Aには番号を振った方がわかりやすい。
→構成を根本から見直すのであればゼロベースからの再検討となり、タイムスケジュールも大幅に見直す必要が出てくる。現在の叩き台の修正でも刊行する意義があるか、あるいは一から見直した方がよいか検討していただきたい。（事務局）
- ・スケジュールの問題もあるので、ガイドライン本編の内容をわかりやすく要約していくという当初の方針に沿って策定していただければと思う。市職員向けと市民向けを書き分けていくことが必要ではないか。
→ひとつの問題は、ガイドライン本編は基本的に市職員向けで、市民向けの内容はあまり厚くないという点がある。（事務局）

- ・スケジュールの問題もあるが、当面は今回の叩き台のようなものでも効果はあると思われるので、このまま作成していけばよいと思う。修正については、市職員に向けたものなのか、市民に向けたものなのか、説明の対象がはっきりわかるよう書いていただければよいと思う。
→この方向性であれば当初のスケジュールのとおり進行できるものと思う。(事務局)
- ・分冊にしないほうが、市民と市職員がお互いの協働に対する記述を目にすることができるのでよいのではないかと思う。
- ・議論の方向性については了解した。ただ、これでは手引きはわかりにくいものになると言わざるを得ない。
- ・資料2の7ページ「Q：協働のパートナーはどう探せばいいの？」の3番目の段落「印西市では、(中略)・・検討してみてください。」は、構成の流れからすると協働の領域と手法の関係のところにくるべきものではないか。検討していただきたい。
- ・資料2の9ページ「自己評価のポイント(参考例)」は、表現が曖昧で具体性に欠けるように見える。
→ガイドライン本編の詳細な記述から重要なポイントを抜き出して記載したが、わかりにくくなるのであればこの部分は削除してしまう手もある。(事務局)
→「自己評価のポイント(参考例)」はガイドライン本編に詳細が記載されていることをきちんと表示し、叩き台からは削除することとする。(委員長)
- ・「協働の事例集」については、企画提案型協働事業の事例だけが対象となるのか。
→企画提案型協働事業の事業も最低ひとつは入れたいと思うが、広い意味での協働もなるべく多く紹介していきたいと考えている。ご提案いただいたモデル事業の紹介や、多くの実施事業が実は協働の一形態である点を強調するという視点は、大いに参考にさせていただきたい。(事務局)
- ・協働の事例集では写真もなるべく使用していただきたい。

《検討結果》

- ・今回の指摘を踏まえて叩き台を修正し、次回の会議で最終案を提示する方向で進める。
- ・その他、叩き台に対する意見がある場合は、3月中であれば検討可能なので、事務局までメールで送付する。

4 その他(事務連絡)

- ・印西市市民活動推進委員会の任期について
- ・印西市市民活動推進委員会の次回日程について

平成27年度第1回 日時：4月22日(水) 午前10時から 場所：文化ホール大会議室

以上